# 誌上行学講習会

高佐日煌上人

修羅心の畜生心。これは愚痴斗争心でありますが、愚痴というのはあきらめが悪いということです。ケンカをして仲裁人に説得され一応、やめるのですが、どうしてもあきらめきれない。大川で尻を洗うというようなさっぱりした心になれない。いつまでもじめじめと忘れられない心の状態をいうのであります。

修羅心の修羅心。これは争意斗争心でありまして、つまり争わんが為に争うという、特に意味を持たづにただ争う心であります。ですから自分勝手に理由をデッチ上げて、争う心とも言えるでありましょう。

修羅心の人間心。名付けてこれを斗争当然心と言います。人間心の場合は親和心でありますが、悪の世界では、悪い心（斗争心）を当然だとする、悪心を平常心だと考える状態になるのであります。ケンカをすることを少しもみにくい、と感じない、恥ずかしいこととも思はない、極めて自然だと思い込む心であります。

修羅心の天上心。これは斗争快念心であります。ケンカすることを楽しむという、やっかいな心であります。若い人達の中によくみかけます。ケンカすることを楽しみにしてケンカを売り歩く。いわゆる硬派不良などはその類いでありましょう。

修羅心の声聞心。これは斗争知法心で、何事ものごとには技術がある。ケンカにだって技術がある。斗争を職とするような人にも専門的研究が出来ていまして先輩は後輩を指導して教える。ケンカの仕方を教える。即ち必勝の手を教える。習う方も一生懸命これを知ろうとする。

これを斗争知法心と名付けるわけであります。

修羅心の縁覚心。これは斗争覚法心のことで、この方は教わるというのでなく、自から体験して悟るというのであります。つまりはどうすればケンカに勝てるかという方法を悟る心であります。

修羅心の菩薩心。これは争中他念心でありまして、ケンカをしている間にだんだんと相手方の存在を気の毒におもう心情であります。少しはでになぐり過ぎたのではないかというあわれみの情を持つことを言います。夫婦ゲンカにはよくこのような気持が起るようで、総じて善良な人がたまたま誤まって修羅界（悪の道）に随ちた場合には、特にそういう反省心が起るようであります。

修羅心の仏陀心。これは争中徴良心。この心は明らかに反省の心で、争いがみにくいということに気のついた状態であります。自から恥ずる気持が起ることであり、悪心の中にほのぼのとした正しい光り、即ち良心が見え始めたという心であります。

以下次号